

令和3年度地方消費者行政に関する先進的モデル事業

「中部エシカリングプロジェクトで
衣類におけるバリューチェーン全体での課題を解決」
～地球全体の課題である脱炭素社会と循環型社会を同時に実現～

事業実施報告書

2022年（令和4年）2月
株式会社新東通信

はじめに

本報告書は、令和3年度地方消費者行政に関する先進的モデル事業として消費者庁委託事業として採択された「中部エシカリングプロジェクトで衣類におけるバリューチェーン全体での課題を解決」～地球全体の課題である脱炭素社会と循環型社会を同時に実現～の事業実施報告書である。

中部地方の「衣類」をテーマに、地域で先進的な取組を行なっているリデザインプロジェクト、フェアトレード名古屋ネットワークを核に、株式会社新東通信を事務局として「中部エシカリングプロジェクト」を発足、「生産者、販売者、消費者の関係性の分断を、互いに知ることによって繋ぎ直し、エシカルなバリューチェーンを構築」をテーマとして、7回のエシカル勉強会（特別講座、セミナー含む）、2回のファッションショー／トーク、SDGs AICHI EXP0 2021への出展、エシカル商品販売、情報発信活動及びAIを活用したアプリの実証、衣料廃棄物削減CO2算定を実施した。それぞれの取組において、効果的な衣類に関するエシカル消費の普及啓発の在り方を見出すことができたと考えている。

本事業の成果はWebサイト「エシカリング」で動画や写真等で紹介した。この取り組みが中部地方から全国に広がり、衣類におけるエシカル消費推進及びSDGsの達成に繋がっていくことを願っている。

この場をお借りして、消費者庁の皆様をはじめ、本プロジェクトに関わってくださった、生産者、販売者、消費者全ての方に心から御礼申し上げたい。

令和4年2月

株式会社新東通信

目 次

1. 本事業について	3
(1) 事業の背景と目的	3
(2) 事業概要	4
2. プログラム実施	
(1) エシカル勉強会／セミナーの開催	6
(2) ファッションショー／トークの開催	14
(3) SDGs AICHI EXPO 2021への出展	20
3. 広報	
(1) プログラムの広報	22
(2) 成果の広報	24
(3) 取材・インタビューの広報	25
4. 冊子の作成・配布	26
5. エシカル商品販売、 販売情報発信活動及びAIを活用したアプリの実証	27
6. 衣料廃棄物削減CO ₂ 算定	29
7. 事業の評価と今後の課題	30
(1) 事業評価	30
(1) - 1 定量的評価	30
(1) - 2 定性的評価	32
(2) 本事業の成果と残された課題	43

1. 本事業について

(1) 事業の背景と目的

エシカル消費とは、消費者庁の資料によると「地域の活性化や雇用なども含む、人や社会・環境に配慮した消費行動」とあるが、衣料のバリューチェーンでは課題が多く、特に環境問題では「脱炭素社会」「循環型社会」の構築に大きな影響を及ぼしている。

2020年の衣料の国内新規供給量は計81.9万トンに対し、廃棄される量は計51.2万トン、また、国内に供給される衣類の製造から廃棄までに排出されるCO₂は計9500万トンに上り、世界のファッション産業の排出量の4.5%に当たる（「環境省 令和2年度ファッションと環境に関する調査」（2020年3月））。愛知、名古屋を中心とした中部地方は、地場の伝統的な織物や染め物等の企業も多く、伝統を受け継ぎながら発展し、ものづくりを継承しているが、その一方、日本の衣類のほとんどは海外から輸入されるため、わが国のファッション産業は他国の環境負荷の上に成り立っているとわれ、その生産地での地域課題や人や環境に負荷を与えているものも存在する。

そのような中、本プロジェクトでは以下を課題として考えている。

●生産者と消費者の関係の分断

衣料製品の素材や製造現場での「ものづくり」ストーリーが消費者には伝わらず、消費者のニーズが生産者に伝わらない分断した関係ではエシカル消費が実現できない。

●未利用繊維素材の発生による環境汚染

繊維産業では、素材の製造過程や商品化の過程で、端材やロット不良等の未利用繊維素材が多量に発生、多くは焼却処分され、廃棄と焼却によるCO₂が発生している。

●未来の衣料関連産業を担う若者はエシカルの現状を知らない

「衣類」の生産・販売・消費活動等の中で、消費者の満足を得るために多めの製造が慣例となっている。大量生産は、大量廃棄、ファッション・ロスを生み出し、地球環境への負荷増大の現実をファッションを学ぶ若者が知る機会は多くない。

●障がい者の雇用が十分でない

障がいのある方々が有する生産技術への理解があまり無く、継続雇用や適正な賃金の支払いが十分にできていない状況がある。

●エシカルについて何の行動をしていいか認知不十分

日本国内でのフェアトレードの認知度は32.8%、知名度は53.8%。10代の若者では認知度は45.9%、知名度は78.4%（FTFJ全国調査2019年3月）。身近にフェアトレード商品を手にとれるように、エシカル消費が可能な環境を今から準備する必要がある。

そこで本事業では、衣類に関わるバリューチェーン全体での課題を解決するには、関わり合う人々が、互いに理解し合う事が必要だと考え、中部地区の「衣類」をテーマに、地域で先進的な取組を行なっているリデザインプロジェクト、フェアトレード名古屋ネットワークを核に、株式会社新東通信を事務局として「中部エシカリングプロジェクト」を発足。生産者、販売者、消費者の間にある分断を、理解で繋ぐ仕組みづくりと、A Iやオンラインの先進技術を活用し広く発信し、伝え、行動に導くことでエシカル消費の推進を図り、「中部エシカリングプロジェクト」として、「地域に根ざした、世界と繋がる誰一人取り残さないエシカル消費」の実践と共にSDGsの目標達成も図る。

本年の事業全体イメージ



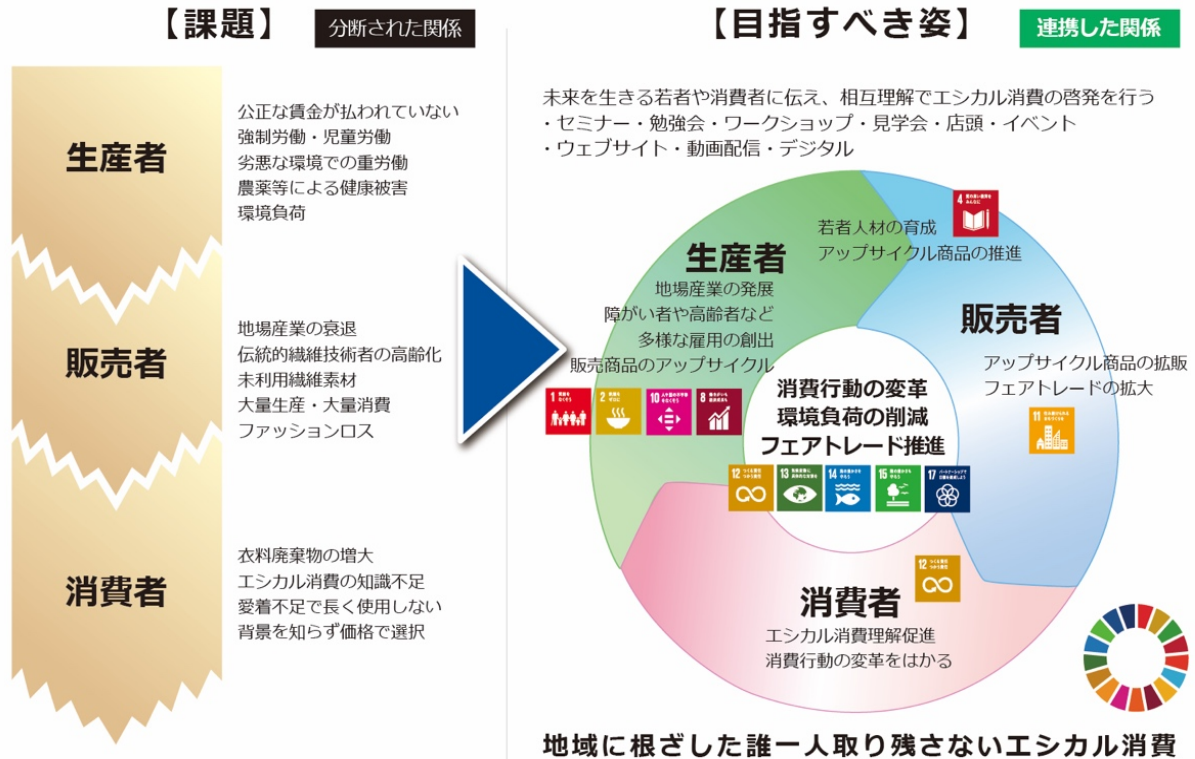
(2) 事業概要

本事業は愛知、名古屋を中心とした中部地区の「衣類」をテーマに、生産者、販売者、消費者そして若者と共に考える場・機会づくりでエシカル消費推進体制の構築を図るものである。

「リデザインプロジェクト」と「フェアトレード名古屋ネットワーク」の活動で、未利用繊維素材を利活用し、持続可能な衣類に関わるバリューチェーン構築に繋がる人材育成のプログラムを構築し、当事者から生の声で伝え、知り、考えて、意見交流から、行動に繋げ、そして、パートナーシップを組むことで、消費行動と販売活動の変容を図り、ものづくりの現場には障がい者の技を生かし雇用拡大に繋げる。

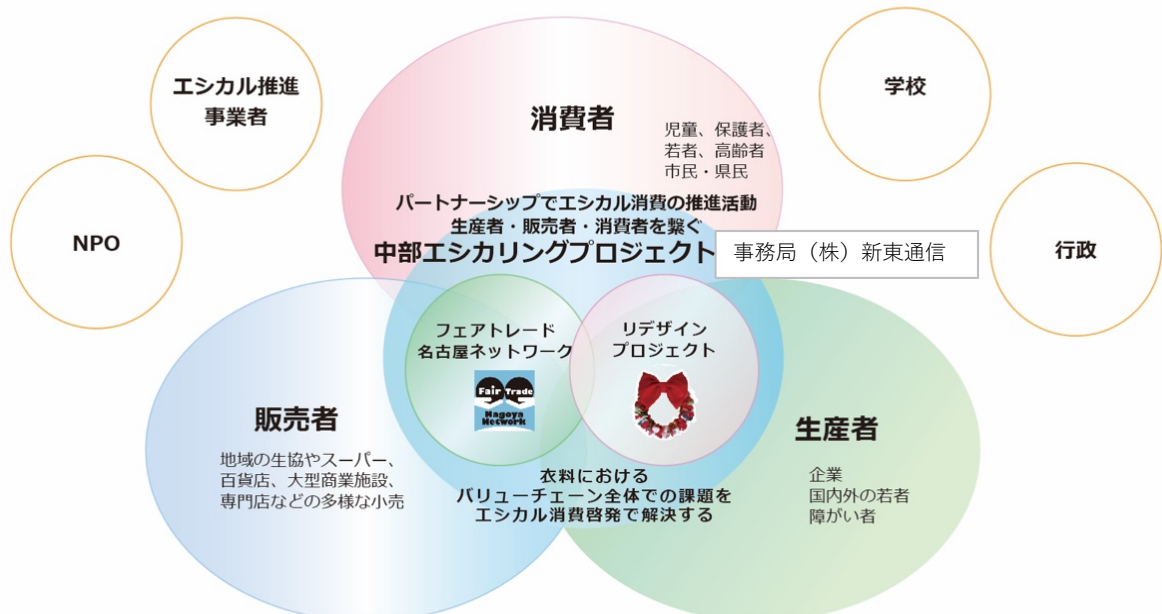
また、ウェブサイト「エシカリング」の活用、A I画像認識アプリの活用も含め、より広くエシカル消費の理解・情報発信・拡散・認知向上する新たな仕組みづくりを構築する。

衣類に関わる消費の課題とエシカル消費の啓発により目指すべき姿



生産者＝販売者＝消費者を繋げる

「地域に根ざした、誰一人取り残さないエシカル消費」の実践



●地域行政との繋がり（地域循環共生）……地域や地域の繊維産業の課題解決が、若者の人材開発や障がい者の働きがいも同時に解決する

●フェアトレードを通じて世界との繋がりを消費者に周知（消費者啓発）

……「お買い物を通して、生産者の生活や経済的支援に貢献できるという事」を、小売りや消費者に知ってもらい、共感し、買い物行動が変革する

2. プログラム実施

(1) エシカル勉強会／セミナーの開催

バリューチェーンを可視化し、繋がりを体験する勉強会を実施、地域の繊維産業や障がい者の働きがい、未利用資源を使ったデザインなど、それぞれの課題と繋がりを知ることで「地域発エシカル」を学んだ。開催にあたり、講師には、リデザインプロジェクトに携わっている人、エシカルの先駆者を迎え、今まで分断されていた作り手と消費者の関係を繋ぐものとし、SDGsへの達成に貢献し、エシカル消費で社会を変えることを目指し実施した。

このプログラムは、実際に地場の伝統的な繊維メーカーや染工所を見学し、作り手の想いや、先進的なサステナブルの取組に触れるなど、ワークショップによる講師と参加者とのコミュニケーションを重視したものであるが、新型コロナウイルス感染症の影響で消費者庁との協議の上、一部オンライン開催とした。

主な内容は以下の通りである。

内容：①地域の繊維産業で未利用資源発生の現場を視察し、資源循環を学ぶ。

②障がい者作業場を訪問し、製作メンバーや指導者と交流し相互理解を深める。

③未利用素材を使って、クリエイターとのワークショップでアップサイクルを学ぶ。

④消費者に「エシカル消費を伝える」ための方法を学ぶワークショップを実施する。

⑤小売店で一般消費者に、リデザインプロジェクトを通してエシカル消費を伝える。等

(1) - 1 エシカル勉強会 第1回の開催

日時：2021年8月28日(土) 14:00-17:00

場所：国際デザインセンター(名古屋市)

オンライン同時開催

講師：津島毛織工業組合 安達友彦氏

株式会社艶金社長 墨勇志氏

国島株式会社社長 伊藤核太郎氏

一般社団法人M. S. I. 稲垣貢哉氏

参加者：34名(学生、社会人)

内容：

地域の繊維産業で未利用資源発生の現場を知り、資源循環を学ぶ。

尾州毛織物産地の歴史と推移を知り、リデザインプロジェクトに参加する産地企業の社長さんから自社の取組について伺い、資源循環についてグループでディスカッションを行う。

成果：

参加者の80%以上がエシカル消費について知っており、グループディスカッションでも他の参加者と交流ができ、SDGsとの関わり方について知ることができたとの結果が出ている。エシカル消費の課題として、作り手と使い手がどこかで分断されている事が考えられるが、生産者がどのような想いでものづくりをしているかを知り、販売者も消費者も服を大事に長く着るという意識、また、資源循環への意識について、それぞれの立場で議論を深めることができたと考えられる。



(1) - 2 エシカル勉強会 第2回の開催

日時：2021年9月25日（土） 14:00-16:45

場所：株式会社新東通信（オンライン開催）

講師：マティーナ 東氏、名身連第一ワークス 井戸田氏、青空工房 鈴木氏、
作業所えがお 荒井氏、イルカ作業所 佐藤氏、名身連 井戸田氏
いまいせ診療センター 大野氏、守山作業所 後藤氏、
にじなみPLUS 山田氏、コード井藤氏

参加者：24名（社会人）

内容：

リデザインプロジェクトに参加する生産者である障がい者支援施設の指導者と交流し、制作メンバーの普段の作業の様子、リデザインプロジェクトで参加した作業のことなどについて伺い、相互理解を深め、講師、参加者でディスカッションを行う。

成果：

エシカル商品の生産者である障がい者支援施設の方から、直接エシカルなものづくりについて学び、障がい者就労支援についての認識し、また、知識を得ることができた。また、このフェアトレードの取組が、就労拡大、賃金、働く人の生きがい、誇り、社会との繋がり等になることを学んだ。反面、課題として、製法技術の向上、継続的な商品生産、販売時の売り場確保などの課題も明らかになった。

「誰かの役に立っていることで誰かが喜ぶことがうれしい」と思えることがエシカルにとって大切だと考える。作業所同士の繋がり、素材を提供するメーカー、製品を作る作業所、商品を売る販売店、消費者へと繋がるパートナーシップが輪になって継続的に回り続けていくこと、プロジェクトに関わる皆が同じ思いをもって同じ目標に向かう事、そして、本事業の目的でもある消費者の消費行動の変革を促す為、一人一人が自分事として今回学んだ内容を周りに伝えることを参加者の間で共有した。



(1)-3 エシカル勉強会 第3回の開催

日時：2021年10月30日(土) 14:00-17:00

場所：国際デザインセンター（愛知県名古屋市中区）

講師：林由香氏（fashion&lifestyle coordinate/名古屋モード学園 講師）

参加者：12名（社会人）

内容：

アップサイクル&魅せるディスプレイをテーマに未利用素材を使用したワークショップと、実際の商品を使って魅力的なディスプレイを構成する

成果：

商品を認知してから購入までに至る過程である購買プロセスで（UDSSASウドサス）や「フィジカル」な魅力を最大限に表現するディスプレイの方法として、ゴールデンゾーン、視認テーマ性、什器、SKU管理等の基礎的な知識を学び、実際にディスプレイを行った。

また、参加者から、実際に地域の繊維工場から提供された未利用繊維素材を使用し、段ボールを使って手織りのワークショップを行い、未利用繊維素材の価値や、もの作りの楽しさ、苦労を実感することができた、未利用素材を繋ぎ合わせる中で新しいデザインが生まれた、ただ余りものの寄せ集めではなく、新しい価値が生まれていると感じた、ディスプレイのストーリー性を明確に消費者に訴えるテクニックが必要等の声があった。

どんなに魅力的なエシカル商品であってもそれを手に取ってもらわないと消費活動に繋がらない。ただ並べるだけでなく、魅力あるディスプレイを行うことが作り手の想いを伝える重要なプロセスの一つであること、ディスプレイは非接触で生産者と販売者、消費者とのコミュニケーションを可能とする方法であることを認識し、今後の販売活動推進に繋げることができる。



(1) - 4 エシカル勉強会 第4回の開催

日時：2021年11月27日(土) 14:00-17:00

場所：国際デザインセンター（愛知県名古屋市）

オンライン同時開催

講師：東珠実氏（椙山女学園大学 教授）

鳥原由美氏（株式会社マルワ HIME企画）

参加者：29名（学生、社会人）

内容：

「エシカル消費」とは何かを知り、消費者に伝えるツール（CM）を作る。

エシカル消費を学び、人や社会・環境・地域に配慮した消費行動について考え、消費者に「エシカル消費を伝える」ための方法を学ぶ。

成果：

「エシカル消費で持続可能な未来を創る」として、SDGsを中心として人権・経済・環境に直接的・間接的に関わること、こだわりのある消費生活を送る、多様な価値を創造する、改善改革の担い手となることで持続可能な社会が実現できる事を学んだ。

また、ワークショップでは、「エシカル消費を伝えるツール“楽しくCMを作ろう”」をテーマに消費者の消費プロセス（AIDMAの法則）に基づいて消費者の背中を押す方法（CM制作）の説明を聞き、参加者が、リデザインプロジェクトにおける今年の新商品の1分間のCMを制作した（1分間は文字にすると300～400字）。参加者には、実際にリデザインプロジェクトデザインコンテストに入賞し商品化されたものを製作した学生もいた。参加者からは、“責任ある消費”として自分の為でなく「誰かの為」「世の中の為」持続可能な社会の実現の為に、自分に出来る消費の有り方を改めようと感じた等の声があり、直接消費者に商品を紹介・販売するシュミレーションを行う事で、生産者と消費者がコミュニケーションを図り、エシカル消費の理解・共感を促し認知度を向上させるイメージを持つことができた。



(1) - 5 エシカル勉強会 第5回の開催

日時：2021年12月4日(土) 14:00-17:00

場所：国際デザインセンター（愛知県名古屋市）

講師：都筑佑輔氏（株式会社ウィズダムトレード）

鈴木修一郎氏（株式会社ウェイストボックス）

岡田好弘氏（株式会社ジェネックス）

参加者：12名（社会人）

内容：エシカル商品を販売するための実践に向けた事前学習。

売場での販売を通じてエシカル消費を伝えるノウハウを経験者から学ぶ。

成果：

これまでの勉強会を通じて想いを伝える販売方法を学んだ。オンライン販売やWEBでの接客方法では期待を上回るサービス提供が必須であるという事、消費者は商品を購入する際に「もの」だけではなく「こと（背景）」を知り、納得して購入する傾向が強くなってきている為、対面で説明しきれない部分を補完するアプリ等の見える化ツールによる効果的な商品認知向上、リアル店舗での「営業(販売)=理論と技術」として、ニーズを呼び起こすニード喚起創造のプロセスを学んだ。

エシカル消費の推進においては商品を作るだけでなく、お客様が購入することで完結する。リデザインプロジェクトは企業から提供された未利用素材を学生がデザインして作品を制作、作業所で製品を作ってお客様に気に入って買っていただくという流れの中で、それぞれの担当が自分の役割と責任を果たしながらを繋がりをもって取り組んでいくプロジェクト。学生がデザインした作品をお客様が購入するに値すると思ってもらえる商品にする作業も重要である。消費者にリデザインを知ってもらう→共感してもらう→できれば購入してエシカルに関心を持ってもらうきっかけになれば意義がある。本プロジェクトに関わった人たちが他の人に伝えて広げることも大事であり、今回一緒に勉強した皆さんが次の機会に誰かに伝える役割を果たしてもらうことが本勉強会の実施意義である。



（１）－６ エシカル勉強会 特別講座の開催

日時：2021年10月8日（金） 9:30-18:00

場所（見学先）：

- ・株式会社（岐阜県大垣市）
- ・岐阜県毛織工業協同組合（テキスタイルマテリアルセンター）（岐阜県羽島市）
- ・国島株式会社（愛知県一宮市）
- ・Re-TAiL（リテイル）（愛知県一宮市）

参加者：35名（学生、社会人）

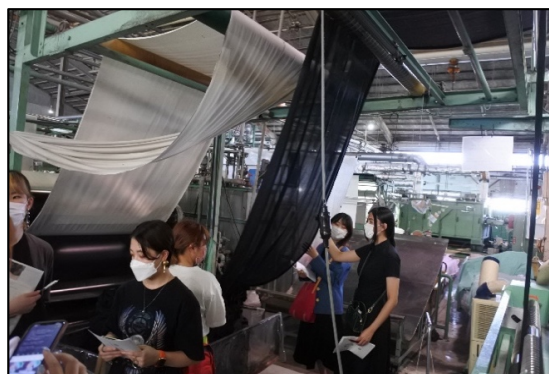
内容：

地域の伝統的な繊維メーカーや染工場を見学し、作り手の想いや先進的なサステナブルの取り組みに触れ、衣料に関わるエシカル消費について学ぶ

成果：

中部地方の地場産業である毛織物の生産現場の株式会社では、織り上がった、または編み上がった生地を染めて仕上げる工程、岐阜毛工マテリアルセンターでは、テキスタイル展示会で紹介された代表な生地、国島株式会社では製織（織り上げ）工程を見学し、毛織物の歴史を学んだ。また、再生可能エネルギーへの切り替えやバイオマスボイラーの導入等でカーボンニュートラルを実現し、地域産業からSDGsの実践、エシカルなものづくりの説明を受け、地域から地球全体の課題である脱炭素社会と循環型社会を同時に実現する可能性を実感した。学生中心にエシカル消費をあまり知らない参加者もいたが、最終的には参加者の80%がエシカル消費と地域の繊維産業の現場と想いについて理解できたようだった。特に、消費者庁米山氏の話により、各省庁の方針を理解することができ、企業の一員としても、一消費者としても意識を高めることができたとの意見があった。

それぞれの見学先で五感を働かせて温度・湿度・匂い・明るさ・音を感じ取り、生産現場で作業する人の想いを知り、それぞれの立場で社会の一員としてサステナブルな社会構築に繋がるエシカル消費行動の実践イメージが明確になった。



(1) - 7 企業向けエシカルセミナーの開催

日時：2021年12月2日（木）14:00-15:30

配信会場：RT白川ビル（愛知県名古屋市）

講師：百瀬則子氏（中部SDGs推進センター）

鳥原由美氏（株式会社マルワ HIME企画）

原田さとみ氏（エシカル・ペネロープ株式会社）

鈴木修一郎氏（株式会社ウェイストボックス）

参加者：50名（社会人）

内容：

企業とエシカルをテーマに、中部圏の企業における事業活動を通じたエシカルとの関わり方を事例とともに紹介し、エシカルを通じたSDGs実現に向け、今後の参考にいただけるような企業向けオンラインセミナーの実施。

成果：

中部地域を中心に活動している講師から、リデザインプロジェクト、地域の印刷会社によるサステナブル経営、フェアトレードタウン名古屋の取組、カーボンマネジメントから考えるSDGs等の講演があった。

中部を中心に、北海道、東北、関東と広い地域から参加があり、性別は男性が80%を占め、30代～70代ののうち、60代が多かった。そのうち、80%が「エシカル消費やSDGsの考え方や行動について理解が深まったとして、今後のサステナブルな行動、消費、ものづくりに繋がりそうだと」の意見があった。また、これから取り組みたい事として、カーボンニュートラル、廃棄物の有効活用、フェアトレード商品の販売・購入、アップサイクル等があげられ、企業や個人が取り組むエシカルの啓発に繋がった。

衣類に関わる消費の課題とエシカル消費の啓発により目指すべき姿

【課題】 労働と環境問題

【目指すべき姿】 持続可能な社会

生産者：衣類生産の課題、労働環境の改善、環境負荷の低減、持続可能な生産方法の導入、フェアトレードの推進、アップサイクルの推進

販売者：消費者への啓発、エシカル消費の推進、フェアトレード商品の販売、アップサイクル商品の販売

消費者：エシカル消費の推進、フェアトレード商品の購入、アップサイクル商品の購入

地域に根ざした誰一人取り残さないエシカル消費

世界に優しく、地域に楽しく、自分に美しく
～フェアトレードタウンでエシカル消費～

「地球とのフェアトレード」つながり！地域と世界、今と未来！

消費啓発 令和3年度地方消費行政に関する先進的モデル事業による委託事業

原田さとみ (Satomi HARADA)

エシカル・ペネロープ株式会社 代表取締役
一般社団法人 日本フェアトレード・フォーラム (FTFJ) 代表理事
NPO法人フェアトレード名古屋ネットワーク (FTNN) 理事
一般社団法人 日本エシカル推進協会 (JEI) 理事
JICA中部 オフィシャルサポーター / タレント

(2) ファッションショー／トークの開催

愛知県一宮市を中心とした尾張地域は「尾州」と呼ばれ、昔から織物産地として発展。現在も日本有数の規模と技術を誇り、毛織物をはじめ多様な素材を創造している。尾州生地の良いを生かし、中部から全世界へ、アップサイクル・ファッションを発信する事を目的に、ファッションショー／トークを開催した。なお、一部リアル開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響で消費者庁との協議の上、オンライン中継のみとした。

(2) - 1 エシカル&フェアトレード・ファッショントーク

日時：2021年11月21日（日）13:00-15:30

中継会場：宮田毛織工業株式会社（愛知県一宮市）

ファシリテーター：原田さとみ氏（エシカル・ペネロープ株式会社）

講師：稀温氏（Kion Studio代表）、古田裕香氏（宮田毛織工業株式会社）

井上愛氏（NPO法人motif）、吉井由美子氏（BASEY合同会社）

参加者：509名（後日視聴含む）

内容：

「人がつむぎ、糸が奏でるエシカル・ファッション「フェアトレード」の手仕事 & 「尾州」伝統の織物産業「アップサイクル」で地域の未利用繊維素材を活かして、おしゃれに。～世界に優しく、地域に楽しく、自分に美しく～」をテーマにオンラインファッショントークを開催。

成果：

参加者を100名で想定していたが、後日視聴を含め500名以上の視聴があった。その要因として、エシカル消費の注目が高まっている事、また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、開催方法をオンライン配信に設定した事が考えられる。世界のアパレルブランドからも注文が入る尾州、その歴史と実績を誇る工場からの中継ということもあり、普段は入ることができない工場の中を生産者自身が紹介し、ファッションショーを行う事で、エシカル・ファッションの具体的な取組、地域からの発信や小さな事から始めることの重要性を認識することができた。



（２）－２ エシカル&サステイナブル・ファッションショー／トーク

日時：2022年1月22日（土）13:00-16:30

中継会場：星が丘テラス（愛知県名古屋市中区）

ファシリテーター：原田さとみ氏（エシカル・ペネロープ株式会社）

挨拶：米山眞梨子氏（消費者庁 消費者教育推進課）、大村秀章氏（愛知県知事）

講師：水野浩行氏（MODECO）、稀温氏（Kion Studio代表）、

井上愛氏（NPO法人motif）、三島弘美氏（ひょうたんカフェ）、

後藤美和氏（ほほほ）、杉山菜那氏（森菊株式会社）、

子池美帆氏（株式会社艶金）、加藤美奈氏（リデザインプロジェクト）、

岩田真吾氏（三星毛糸株式会社）、

溝口量久氏（豊島株式会社）、滝澤愛氏（椙山女学園大学）、

後藤裕一氏（大酬株式会社）、木村奈美氏（愛知県県民文化局）

参加者：1051名（後日視聴含む）

内容：

「エシカル×若者×繊維産業×SDGs」をテーマにした多様な主体によるイベントとして、地元大学の学生による残布を生かした尾州ツイード・ファッションショーや尾州毛織工場からのファッションショー（動画）、海外生産地との中継でファッション・ロス削減を考え、企業・大学・行政による「エシカルディスカッション」、地場産業の尾州毛織物繊維・生地を生かしたアップサイクル・ファッションショー等について地域を代表するショッピングセンターを会場として中継配信。

成果：

地域の大学である椙山女学園大の学生によるファッションショーで使われた生地はすべて、地域企業からの未利用繊維素材である再生ウールやニット、尾州ツイードや、学生らが持ち寄った服、高校生の時に愛用していたレザージャケット等の衣服を利用するなど、未来を生きる学生達がアップサイクルを体現した。当日のイベントの様子は、新聞2社、テレビ1社から取材があり、地域社会へ広く啓発波及効果をもたらした。

また、消費者庁米山氏や愛知県大村知事の挨拶、地域企業によるディスカッション、羊皮の生産地・エチオピアとオンラインで繋ぎ、公正な値段で取引を行うフェアトレードや現地の自然・人々の暮らしについて紹介や意見交換があった。産官学連携の構築で中部地方と世界を繋ぎ、「中部エシカリングプロジェクト」がエシカル消費及びエシカルファッションの啓発を推進していく基盤作りの礎となった。





2022 年 1 月 14 日

中部エシカリングプロジェクト



消費者庁認定事業

「エシカル&サステナブル・ファッションショー／トーク／アップサイクル・マーケット」

SDGs 未来都市 愛知と世界を繋ぐ

多様な主体によるエシカルイベントを開催！

中部地域を中心に活動を行う中部エシカリングプロジェクトは、「エシカル×若者×繊維産業×SDGs」をテーマにした多様な主体によるイベント「エシカル&サステナブル・ファッションショー／トーク／アップサイクル・マーケット」を開催し、未来を生きる若者や消費者にエシカルについて伝え、「地域に根ざし世界に繋がる、誰一人取り残さないエシカル消費」の実践で SDGs の目標達成に貢献します。

本プロジェクトは、消費者庁令和 3 年度地方消費者行政に関する先進的モデル事業「衣類に関わるエシカル消費の啓発プログラムの開発・試行」に採択され、生産者、販売者、消費者の関係性の分断を、互いに知ることによって繋ぎ直し、エシカルなバリューチェーンを構築する活動を行っています。



今回のイベントでは、椋山女学園大学の学生による残布を生かした尾州ツイード・ファッションショーや尾州毛織工場からのファッションショー（動画）、海外生産地との中継でファッション・ロス削減を考え、企業・大学・行政による「エシカルディスカッション」や地域のアップサイクル事業者を一同に集めたマーケットで循環型経済や地場産業を応援、体験型ワークショップ等、多様な主体が繋がりあい、多世代が楽しみながらパートナーシップを体感できる内容となっています。

また、消費者庁からのビデオメッセージや愛知県大村知事の来場挨拶もあります。

■リデザインプロジェクトは、障がい者就労機会の創出拡大や、一部素材の CO2 排出量見える化を目指した AI 活用アプリ実証で脱炭素社会への貢献、未利用繊維素材を使用したアップサイクルワークショップで消費者交流を実施します。

※エシカル・・・「倫理的な」という意味で、正しく、公平、そして社会や環境に優しい、思いやりをもったサステナブルな消費活動を促す取り組みを指す言葉です。愛知県は 2019 年に内閣府から SDGs 未来都市に認定、2021 年にエシカルあいち宣言が出されました。名古屋は 2015 年にフェアトレード・タウンに認定されました。

※アップサイクル・・・本来であれば捨てられてしまう廃棄物に、デザインやアイデアといった新たな付加価値をつけ、素敵な新しい製品に生まれ変わらせる事。素材をなるべくそのまま活かすことで、廃棄物を削減し、CO2 排出を抑えることにも繋がります。

〈開催概要〉

イベント名：エシカル&サステナブル・ファッションショー／トーク／／アップサイクルマーケット
 日 時：2022 年 1 月 22 日（土）
 ファッションショー／トーク 13:00～16:30、アップサイクルマーケット 10:00～18:00
 会 場：星が丘テラス EAST 1 階 イベントスペース（名古屋市千種区星が丘元町 1 6 - 5 0）
 形 式：ファッションショー／トークはオンライン配信 https://youtu.be/Sj2a3_u_N4M
 アップサイクルマーケットは会場で開催
 参 加 費：無料
 主 催：中部エシカリングプロジェクト
 協 力：NPO 法人フェアトレード名古屋ネットワーク、リデザインプロジェクト実行委員会

（注）

- ・新型コロナウイルス感染症対策の為、やむを得ずオンライン開催のみとなる場合がございます。
- ・アルコール消毒や換気、参加者同士の間隔を空けるなど、十分な新型コロナウイルス感染症対策を行った上で実施します。場合により入場制限をさせていただく可能性がございます。
- ・会場にて参加される方は、マスク着用や手指消毒等に御協力ください。また、発熱など体調に不安がある場合は、参加をお控えください。

主な内容（予定）：

◆ファッションショー／トーク（オンライン配信及び会場ステージ）

ファシリテーター：原田さとみさん

ビデオメッセージ：消費者庁消費教育推進 米山眞梨子さん

挨拶：愛知県知事 大村秀章さん

ファッションショー：【会場からライブ】

「尾州ツイード」 椋山女学園大学生生活科学部生活環境デザイン学科

【ファッションショー動画】

BASEY、色と柄 by MK MILL（宮田（株）毛織工業ニット工場より）

SUMIRE ISHIOKA（国島（株）機織り工場より）

トークショー：【エシカルディスカッション】

国内外のフェアトレード、エシカル消費の事例とともに、循環型、脱炭素のサステナブル・ファッションについて。未利用素材や残った糸や生地や、不要になった衣料品を活かしてアップグレードな商品作りをする「アップサイクル」事業により、大量消費・大量破棄によるファッションロス削減し、地場産業応援・ごみゼロなどの目標をパートナーシップで実現する方法を語ります。

ゲスト：豊島株式会社 執行役員 溝口量久さん他

【アップサイクルトーク】

出店する 10 の事業者の活動を紹介。フェアトレード、アップサイクル、サスティナブル、サーキュラーエコノミー、クラフトマンシップ、ローカルメイド、オーガニック、アニマルウェルフェア、ソーシャルプロダクト、ゼロウェイスト、ファッションロス削減など、深化する「エシカル&サスティナブル・ファッション」の中部地域の誇れる事例です。

海外中継（エチオピア）： audu amet 鮫島弘子さん（フェアトレードバッグ）

◆アップサイクルマーケット（星が丘テラスイベントスペース）

<p>UPCYCLE Market(出店者)</p> <p>10:00~18:00</p> <p>会場 星が丘テラスEAST 1階 イベントスペース</p>	<p>MODECO</p> <p>「捨てられる素材」に命を吹き込むアップサイクルのバイオフィア。廃棄消防服を代表にグローバルブランドとのコラボなど国内外で展開。</p> 	<p>poco up poco(ほほほ/大福(株))</p> <p>いらなくなったものを欲しいものへ。環境問題に対して「プラスに働きかけること」を目指して生まれたアップサイクルブランド。</p> 	<p>Kian Studio ANNEX (キオン・ステューディオ・アネックス)</p> <p>ひとと素材をつなぐ。ファッション素材の産地「尾州」の糸と布を、コーディネーター格調のセレクトで集めます。</p> 
<p>motif</p> <p>障害のある人たちとつくる手仕事を体験中。地域の素材、技術、そして再利用をテーマに、愛おしくなるようなものづくりを展開。</p> 	<p>ひょうたんカフェ</p> <p>モノと人が出合い障害のある人の働く場。手織りや絞り染めの手仕事から地域と繋がり、循環を生み、伝統と新しい価値観からできる可愛い商品。</p> 	<p>もりきくマルシェ(森崎(株))</p> <p>環境への負荷が少ないサステナブルマテリアルに特化した生地ブランド「NATURE & SONS」。</p> 	<p>mikketa(ミッケタ/三星毛糸(株))</p> <p>余り糸や布の切れ端、糸巻きの芯などを活かしたデザインプロジェクト。mikke(発見)して、デザインを+α(工夫)します。</p> 
<p>ritoricat(リトリコ/(株)豊金)</p> <p>染色工場内にある、使われずに廃棄される予定の生地を再利用し、衣料品へよみがえらせるアップサイクルブランド。</p> 	<p>SUMIRE ISHIOKA</p> <p>着物の製作過程で産まれる残布を活かしたアップサイクルな物作り。ポーチ、ブックカバー、巾着バッグ、豊かな温もりのある生活を。</p> 	<p>Re DESIGN PROJECT(ワークショップ)</p> <p>地域産業の資材循環×若者のセンス・アイディア×障がい者就労機会創出というエシカル・プロジェクト。未利用繊維を使ったワークショップ。</p> 	<p>FARMERS PASSION (フェアトレード・コーヒー)</p> <p>森まるごと美味しい。ネパールの自然と人間の力が調和する森林農法オーガニック・コーヒー。最高のコーヒー豆づくりでネパールの農業開発を目指す。</p> 

2-（3）SDGs AICHI EXPO 2021への出展

日本最大級のSDGs推進フェア「SDGs AICHI EXPO 2021」へ出展。リデザインプロジェクトとフェアトレードタウン名古屋から、地元の衣類フェアトレード商品に関わるワークショップ体験等で幅広い情報発信を図ることを目的とする。「SDGs AICHI EXPO 2021」開催テーマは「『地球・まち・ひとが共生できる社会へ』～多世代パートナーシップでつくるSDGsあいち～」で、SDGsリーディングモデルとなるイベントである。本イベントには企業、NPO、自治体、学校合計102団体が出展、各主体間のコミュニケーション、ネットワーク化の構築を図るとともに、リアルでは来場者5,000名以上、視聴者6,000名以上へ向けプロジェクトについて幅広い情報発信を図った。

日時：2021年10月22日（金）・23日（土） 各日10:00-17:00

場所：Aichi Sky Expo（愛知県常滑市）

開催方式：リアル開催＋オンライン開催（YouTubeライブ）

内容：

ステージイベント：「エシカル&フェアトレードファッションショー」

ブース：リデザインプロジェクト、フェアトレード名古屋ネットワークの活動紹介とワークショップ

成果：

ステージでは、フェアトレードの手仕事と尾州の伝統的な繊維産業の布地を使ったファッションショーと企業や中部エシカリングプロジェクトの紹介トークを実施。普段エシカル・ファッションにあまり触れることの少ない男性の参加も多く見られた。また、子ども達や家族連れもファッションショーを見学することで、SDGsを楽しみながら学び体感してもらえて、生産者、販売者、消費者、大人、子ども、男性、女性等、多様な人々が一つに繋がることのできるファッションショーとなった。

ブースではリデザインプロジェクト、フェアトレード名古屋ネットワークの取組紹介、未利用繊維素材を使ったワークショップ体験で、企業やNPO、家族連れの立ち寄りにより多様な主体に向けた訴求ができた。参加者からは、自分の選択が他の人にも繋がりがあることを知って行動したい、ファッションショーを通してエシカルを知れたのはとても良かった、との声があった。

また、愛知県大村知事もブースを視察。当日の知事Twitter発信により、中部地域で衣類におけるエシカル消費推進「中部エシカリングプロジェクト」の認知向上が可能となった。

(3) 画像



エシカル = 思いやり

私たちの幸せの裏側で、弱者への搾取や地球環境破壊などで、誰かや何かが犠牲になっているとしたら、本当の幸せと感じられるでしょうか。物事の背景や裏面に思いを巡らして、社会や環境に優しいか、関わる人みんなが喜んでいるのか、人も自然も、地球上すべての命がハッピーであるよう、思いやる心がエシカルの実践。誰も犠牲にしない穏やかな地球のため

優しい気持ちで、賢く考えて、「買うものを選択」する。それがエシカルです。

